

電子ジャーナルの契約変更と名古屋大学附属図書館医学部分館におけるILL依頼業務の変化

上田知寿子*

名古屋大学附属図書館医学部分館

I. はじめに

医学研究分野では情報の移り変わりが速く、常に最新情報が求められている。図書館サービスの中でも、相互貸借(ILL)は自館の蔵書を補完するために欠かせないサービスである。

名古屋大学(以下、本学)では、一年間の試行を経て2013年4月から、ILL費用の一部を大学が負担している。一方、2014年度にはElsevier社の電子ジャーナルをパッケージ契約から個別タイトル契約に変更したことから、名古屋大学附属図書館医学部分館(以下、当館)ではILL依頼申込み件数が顕著に増加している。

本稿は、電子ジャーナル契約の縮小が当館のILLの文献依頼件数に与えた影響を調査したものである。さらに、ResearchGateやGoogle ScholarなどFree電子リソースへの窓口ツールが電子ジャーナルの補完手段として有効かという視点を併せて考察した。

II. ILL文献依頼件数調査の背景

1. 大学によるILL費用の一部負担

本学は教育・研究・学習へのより効果的な支援を行うため、ILL費用を一部負担している。この負担状況について表1に示した。

表1. 名古屋大学文献等資料入手 費用負担状況

所蔵館サービス	学内の遠方図書館・室	国内図書館(料金相殺参加)	その他の図書館
複写物入手		名古屋大学が負担	
図書を借りる	名古屋大学が負担	往路送料 名古屋大学が負担	申込者が負担
		返送料は申込者が負担	

利用条件は図書館利用登録のある学内所属者で、それぞれ所属の図書館(室)に申し込むことになっている。一回あたりの申込件数や大学費用負担の上限は当館では設

けていないが、集中した場合にはある程度の件数ずつ(例えば5件ほど)順次処理を行う旨を了承してもらっている。

また、申し込みは名古屋大学蔵書検索OPACの利用者サービスや、各種データベースなどからリンクされているWeb申込と、当館ではカウンターへ直接申込用紙を持参する方法で受付している。

このサービスについて、試行時と本稼働とのサービス内容の変更はない。附属図書館が行った試行時の利用者アンケートでは、次年度以降継続への期待を希望し、サービスへの感謝の言葉が多数寄せられた。特に大学院生、学部生、留学生に対して経済的制約を緩和することによって研究意欲を持った者への強力な支援として機能していると、その効果が確認されている。

2. 電子ジャーナル契約の縮小

本学では2013年度まではElsevier社電子ジャーナルのパッケージ契約(フリーダム・コレクション)をしていた。しかし、毎年の上昇と外国為替相場の円安傾向、及び当時導入が検討されていた海外電子商品への消費税課税などにより、本学の電子ジャーナル全体の契約金額が大幅に増加することが想定された。このため、2014年度は負担割合が大きいパッケージ契約(約2,200誌)から個別タイトル契約(約370誌)に変更し、全体の契約金額を抑える方策をとった。

この契約変更に伴い、利用できなくなった論文等入手するために、ILL文献依頼が増加傾向にあると考え調査を行った。

III. 調査期間と概要

調査期間：2011年度～2014年度

内容：文献依頼申込件数

調査の概要：①2011年のNacsis-ILLによらない取り寄せ(NLM(米国医学図書館)等)の件数は不明のため除外した。

②複写、現物貸借、学内他部局への依頼も対象とした。

*Chizuko UEDA：〒466-8550 愛知県名古屋市長和区鶴舞町65.
Tel.052-744-2509 (2015年8月31日 受理)

IV. 結果

文献依頼申込件数を図1に示した。2011年度の1,167件を基準にすると、大学費用負担の試行が始まった2012年度は1.5倍の1,688件；2013年度の本稼働には1.6倍の1,878件，さらに電子ジャーナル契約変更があった2014年度はおよそ2倍の2,373件となっている。

NACSISのILL流動統計（館種別）¹⁾によると，2014年度NACSIS-ILLの依頼件数の合計は717,484件で，2011年度851,088件よりおよそ15%減少している。これと比較しても，今回調査した当館の文献依頼件数は明らかに増加していることがわかる。

また，本学の中央図書館調査支援係が行った内部調査資料によると，2014年度Elsevier社の電子ジャーナル契約変更後の総複写依頼件数を100とすると，当館に限定した場合，同社の割合は26.5%（535件）であった。2013年度について同内容の調査は行っていないが，同社フリーダム・コレクションの全タイトルが利用できたため，複写依頼はほとんどなかったと推測される。

今回の契約変更に伴っておよそ600誌ほどの医学系雑誌が利用できなくなっており，その影響が表れたものといえる。

V. 考察

今回の調査では，文献依頼申込キャンセル件数も調べ，その中でGoogle ScholarやResearchGateなどFree電子リソースへの窓口ツールから論文が入手可能であっ

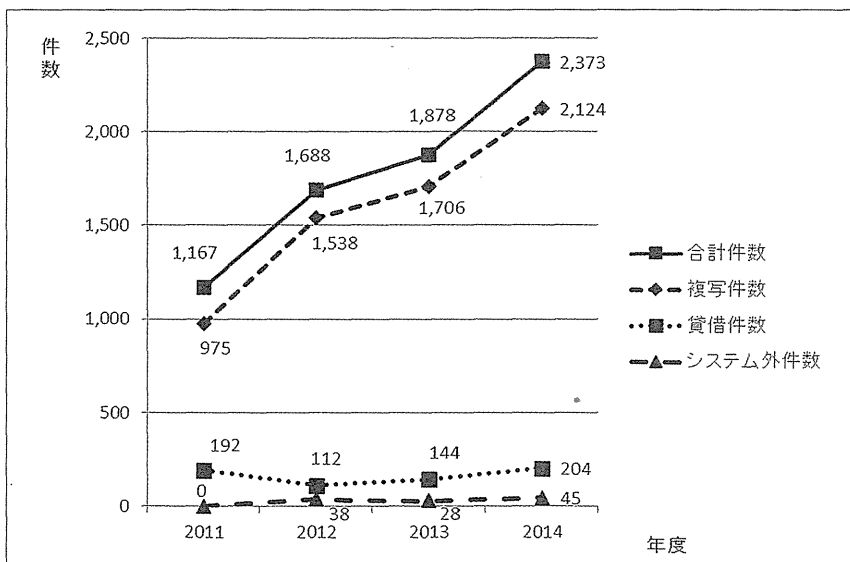
た件数も調査している。ここでは，文献入手の補完手段としてResearchGateについて現時点での情報をまとめた。

ResearchGateは2008年に米国・ボストンでサービスを開始し，現在ではドイツに本部がある研究者のためのソーシャル・ネットワークサービス（以下，SNS）である²⁾。

公式サイトによれば，現在700万人以上の登録があり，その使命は研究者をつなげ，知識・科学的成果を共有して研究を進展させることとしている³⁾。日本の研究者にとっては，海外研究者とのネットワークを広げ情報発信する手段の一つであると考えられる。

当館では，ILL依頼時にこのResearchGateも検索して，論文公開が確認できた文献については利用者に情報を提供している。この情報の利用判断はその用途，目的にも因るため，利用者に任せている。なぜならば，ResearchGateで公開されている論文は，プレプリントやアクセプトされた著者原稿（Accepted Author Manuscript）など雑誌掲載の最終原稿ではなく，または閲覧のみでダウンロードができない場合もあるからである。

今回の調査によれば，当館で機関リポジトリ等も含めたFree電子リソースへの窓口などから入手できたことに因るキャンセル件数は，2013年度は全体の19%ほどであったが2014年度には39%を占めている。件数でみても111件から257件とおおよそ2.3倍になっている。さらにその中で，2014年度当館では総キャンセル数659件のうち109件（およそ16%）について利用者がResearchGateによる公開資料で希望に沿えるとして，ILLをキャンセルしている。



※件数は他機関への申込件数（不成立も含む）。ただし調査段階のキャンセルは含まない
 ※システム外とはNacsis-ILLによらない取り寄せ

図1. 文献依頼申込件数 推移

また、ResearchGateなどでインターネット公開されている論文の著作権については、出版社から論文利用のガイド⁴⁾⁵⁾など規定が定められており、著作者はこれらの許諾範囲内で公開しているため、論文を入手する利用者として何ら問題はないようである。

最近では、「研究者は、研究者向け SNS を、国境を越えた共同研究の足掛かりとして積極的に活用していて、ResearchGateは医学を中心に生物学やコンピュータ科学といった分野の割合が多いのが特徴である」という研究者向け SNS について考察した文献も出てきている²⁾。SNSは社会情報学分野⁶⁾や、材料科学分野⁷⁾など様々な分野で研究者により活用されている。医学分野においても、日本の研究者がどのように活用していくのか今後も注目していきたい。

VII. おわりに

最近10数年ほどの電子ジャーナルの普及により、多くの大学や研究機関で急激にその役割を縮小してきた ILL であるが、当館のように電子ジャーナルの契約タイトル減少により、その業務内容が変化する図書館は今後も増加する可能性がある。

大学図書館では図書・雑誌等資料の購入費が減少傾向であるため、あらゆる分野の希望資料をすべて揃えることは残念ながら困難である。利用者が研究・学習のため、その時点で入手を希望する資料について誰でも平等に手に入れる手段として、ILLを有効活用する方向性は間違っていないと考える。本稿は調査としては小規模であるが、日々図書館で ILL 業務に携わる職員が直接感じていた変

化を、数字の上でも裏付けられたのは大きな意味があった。

今後の課題として、図書館を取り巻く環境は常に変化し流動的であるため、ILLに対する依存度が急速に高くなった場合にもきめ細やかに、的確な情報を迅速に提供し続けることができる体制づくりが必要であろう。

註・参考文献

- 1) NACSIS ILL 利用統計 ILL 流動統計 (館種別) 平成26年度, 平成23年度[internet]. <https://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/archive/stats/ill/flowdata.html> [accessed 2015-12-08]
- 2) 坂東慶太. ResearchGate ーリポジトリ機能を備えた研究者向け SNS ー [internet]. カレントアウェアネス. 2015;324:5-7. http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_9396323_po_ca1848.pdf?contentNo=1&alternativeNo= [accessed 2015-12-08]
- 3) ResearchGate[internet]. <http://www.researchgate.net/about> [accessed 2015-12-08]
- 4) Library Connect Editorial Office. エルゼビアのポリシー「著者は、営利目的または組織的な配布目的でない限り、AAMを個人的な使用、機関内部での使用、許容される学術的なウェブ掲載に利用する権利を有します。」エルゼビアから出版されたジャーナル論文の利用方法: 実用ガイド. San Diego:Elsevier;2011.p.3.
- 5) Elsevier.com[internet]. <http://www.elsevier.com/authors/journal-authors/policies-and-ethics> [accessed 2015-12-08]
- 6) 平松純一. LinkedInを通じたSNSの学術利用の可能性について(若手カンファレンス報告). [internet]. 社会情報学. 2013;2(1):3-8. <http://ci.nii.ac.jp/els/110009624596.pdf?id=ART0010092258> [accessed 2015-12-08]
- 7) 谷藤幹子, 田辺浩介. 次世代研究社プロフィールサービス SAMURAIからNinjaへ[internet]. 情報管理. 2015;58(2):107-16. <http://jipsti.jst.go.jp/johokanri/journal/pdf/201505.pdf> [accessed 2015-12-08]

Change of Electronic Journals Contracts and ILL Request Number Increase at Nagoya University Medical Library

Chizuko UEDA

Nagoya University Medical Library. 65 Tsurumai-cho, Showa-ku, Nagoya, Aichi, 466-8550, Japan

Abstract: Since 2013, Nagoya University have been borne part of the ILL cost. While it have changed the contract of e-journal of Elsevier from package to individual title base in 2014. Due to the change, the number of request of literature has been significantly increased at Nagoya University Medical Library.

This document is the research and analysis for the impact of e-journal contract change to the request frequency for ILL.

Keywords: Electronic Journal, ILL, SNS, ResearchGate (*Jgaku Toshokan*. 2015;62(4):251-253)